

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	徳島県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	由岐中学校(本校)					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	4	10
生徒数	26	20	25	1	72	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎学力定着化への諸方策を求めて

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

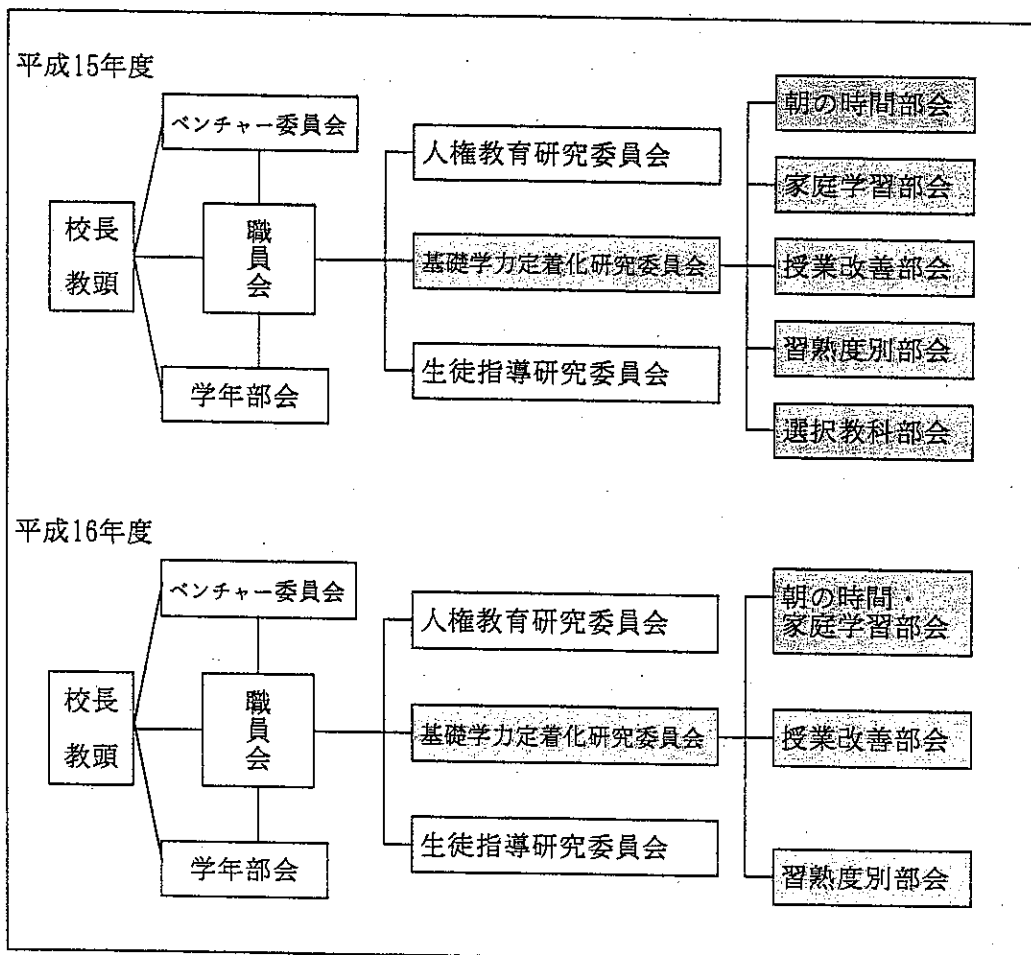
- 2・3年生 数学, 英語  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり, 習熟度別指導を実施する必要があるため。
- 全学年・国語  
全体として日本語能力(読み・書き・理解)を高める必要があるため
- 全学年 国語, 社会, 数学, 理科, 英語  
基礎基本を押さえた授業改善では, 到達度を把握するための小テスト等を作成する必要があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>(1) テーマ 基礎学力定着化への諸方策を求めて</p> <p>(2) 研究の見通し ①本校生徒の学習実態を把握し分析する。 ②基礎学力の不十分な生徒に焦点を当て, 学力向上のための方策を生みだし試行する中で, 全体のレベルアップを図る。 ア 朝の自習時間の使い方の工夫 イ 家庭学習習慣定着化のための工夫 ウ 生徒が意欲的に取り組む指導方法の改善 ・学習のルールづくり ・基礎基本を押さえた授業改善 ・習熟度別少人数指導の再検討</p> <p>(3) 研究の内容・方法 ア 読み書き能力育成のために, 新聞(コラム欄)の視写を試行し, 効果的な運営方法について検討する。 イ 家庭学習習慣定着のため, 自主学習プリント(セミナー)を恒常的な家庭学習教材として使用し, 効果的な運営方法を検討する。 ウ 生徒が意欲的に取り組む指導方法の改善については, 次の3点から研究を進める。 ・学習のルールづくりとその徹底 ・基礎基本を押さえた授業にするための検討と試行 ・実施3年目をむかえる数学・英語の習熟度別少人数指導を再検討しその意義・目的・運営方法等を確かなものにする。</p>
--------	--

平成 16 年 度	<p>(1) テーマ 基礎学力定着化への諸方策を求めて</p> <p>(2) 研究の見通し ①基礎学力の不十分な生徒に焦点を当て、学力向上のための方策を生みだし実践する中で、全体のレベルアップを図る。 ア 読み書き能力育成のための効果的方策の確立 イ 家庭学習習慣育成のための効果的方策の確立 ウ 生徒が意欲的に取り組むための指導方法の改善 ・基礎基本を押さえた授業改善 ・習熟度別少人数指導の効果的方策の確立 エ 選択履修の充実</p> <p>(3) 研究の内容・方法 ア 視写と、朝の読書の組み合わせも視野に入れ、読み書き能力育成のための効果的な運営方法を確立する。 イ 家庭学習習慣育成のための効果的な方策を確立する。 ウ 生徒が意欲的に取り組む指導方法の改善 ・確認小テスト（小質問）の継続、単元末確認テストを作成し収集する。 ・習熟度別少人数指導の運営方法を確立する。 エ 基礎学力定着化に生きる選択履修を実施する。</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題  
1. 研究成果

1 学習実態の把握と研究方針の決定

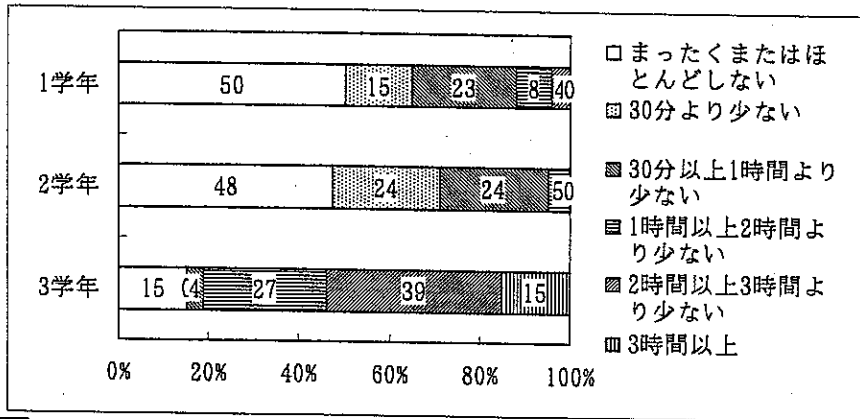
学習に関する本校の実態調査から基礎学力定着化のための課題と研究項目が明らかになり、基礎学力定着化にむけた教員の意識の高まりがみられた。3学期から諸方策を試行している。

- (1) 日頃の家庭学習時間（学習塾での勉強は除く）が極めて少なく、テレビ等に時間を奪われていることから、恒常的な家庭学習の課題が必要である。 (◆資料1)
- (2) 学校以外での読書時間が極めて少ない。日本語の読み書きに慣れさせるため、また日本語能力育成のための何らかの方策が急がれる。 (◆資料2)
- (3) 学習時の基本が確立できていない実態もあり、学習の基本的なルールづくりと、その徹底から出発することを確認し合った。

◆資料1 家庭での生活についてアンケート（抜粋）  
実施 平成15年11月28日  
実施対象 全学年生徒

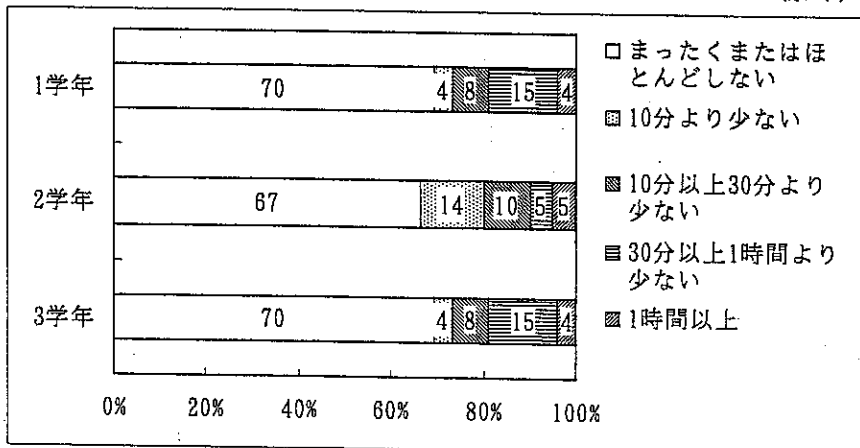
○ 学校や学習塾以外で、1日だいたいどのくらい勉強しますか

〔日頃〕



◆資料2

○ 学校の授業以外に、1日にだいたいどのくらい読書しますか。  
(マンガは除く)

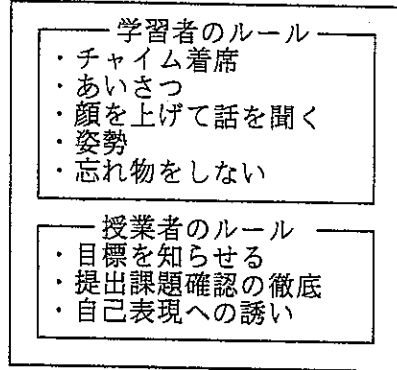


2 諸方策の成果について

(1) 学習ルールづくり

各教科に共通する最低限のルールを決め、学び方などのしつけ面から徹底することにした。短期間のうちにも生徒の学習態度に縮まりがでてきた。

学習ルール



(2) 朝の自習時間の使い方 — 「新聞視写」

① ねらい

基礎学力が不十分な生徒は、教科書や問題を読み取ることができないという問題を抱えている。いわゆる「読み書き能力」の不足が各教科の基礎学力を獲得するうえでのネックになっている現状がある。そこで、学校全体として組織的に日本語能力を高める必要がある。また従来の自主学習プリント「セミナー」への取り組みが甘い生徒がいたことから、朝の自習時間の使い方を改めた。早朝の一定の時間、一定の分量の文章を読み書きすることによって集中力や日本語の読み書きに慣れさせることができるのかと考え、新聞の視写からはじめることにした。話題が身近な地元新聞のコラム欄「鳴潮」を活用している。

② 運営の概略

- ・原則として毎週火～木の3日、8:10～8:30を充てる。
- ・月 ----- 朝会      金 ----- セミナー確認テスト
- ・教師も生徒とともに視写する。
- ・私語禁止を徹底させ、無言による集中視写を行う。
- ・時間いっぱいかけて、丁寧な字で正確に視写させる。
- ・時間が余ったら、記事の感想を書いたり、語句の意味調べをさせる。
- ・ノートを提出させて、担当教師が確認する。

③ 生徒の反応

- ・漢字とかがたくさんあって、書いているうちにけっこう漢字を覚えられる。
- ・だれ一人しゃべらないから前より静かになっているし、みんな集中している。
- ・視写しはじめてから、社会のことがすごく自分の中にはいってきて、知らないことばかりだったので大変プラスになっている。
- ・文章の読み書きがはやくなったように感じて、文章の理解がよくなったように思う。
- ・朝、10分ギリギリに行ったらみんなに遅れをとるからこまる。
- ・内容が難しかったり、自分にも理解できない内容だったり、意味が分からないことがよくあります。
- ・書くのもいいけど、どんどんいろんな文を読むのも良いのでは？

(2年生感想)

(3) 習熟度別少人数指導 (数学・英語)

① 平成15年度の具体的な運用

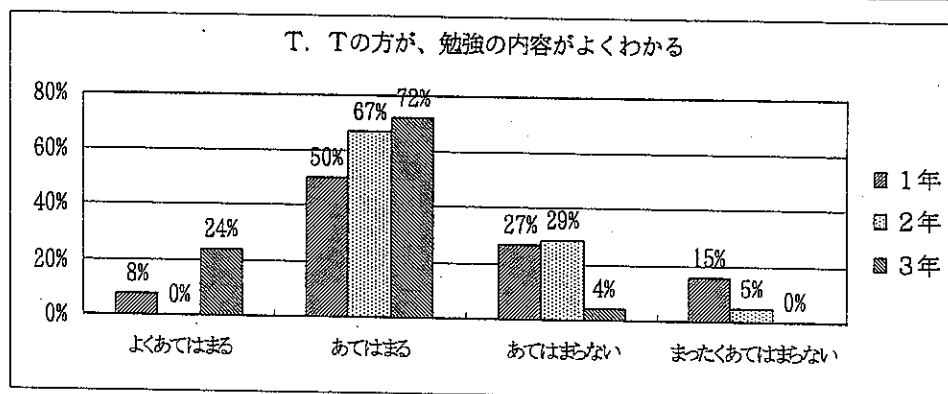
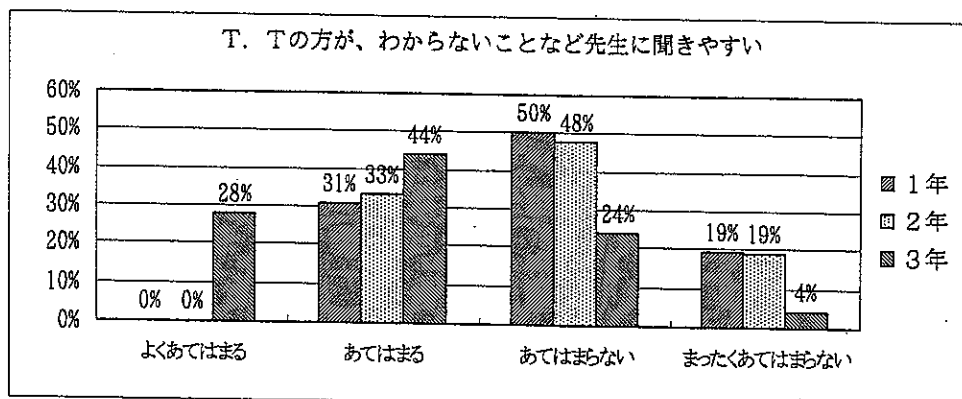
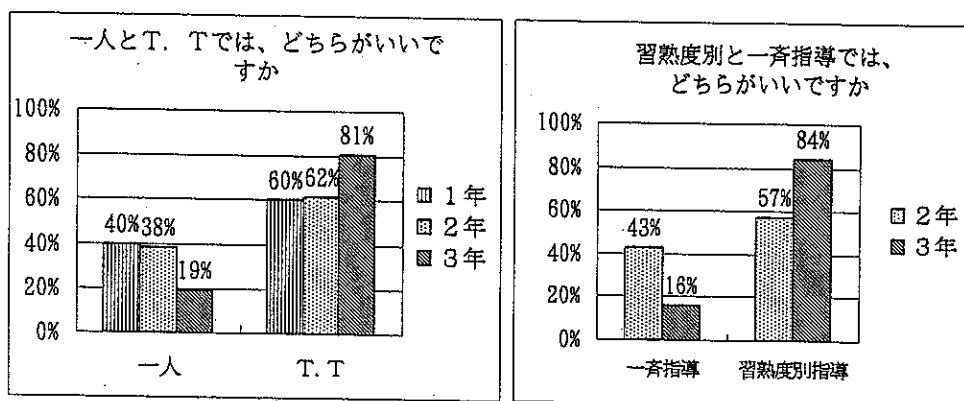
本年度で3年目をむかえた習熟度別学習は下の編成で実施している。単元や進度によってTT指導や習熟度別少人数指導にするなど形態を変え、柔軟な運用を行っている。

学級	大 (標準)	中 (基礎)	小 (極基礎)
3年数学	21 人	4	1
3年英語	20 人	5	1

	大 (標準)	小 (極基礎)
2年数学	18人	3
2年英語	18人	3

② TT・習熟度別少人数指導における生徒の反応  
 学年が上がるに進むにつれてTT指導の方が、そして、習熟度別指導の方がよいという傾向があり、それぞれの指導が生徒たちの学習活動に効果的に働いていることが予想される。特に3年生の習熟度指導を期待する声が84%もある。  
 (◆資料3)

◆資料3 TT・習熟度別少人数指導に関するアンケート  
 実施 平成15年9月11日  
 実施対象 全学年生徒



(4) 基礎基本を押さえた授業改善

目標に準拠した評価（絶対評価）では、単元ごと、授業ごとの観点別の評価規準、評価基準（判断基準）が設定されている。本校では、どの授業でどの観点の評価するか、評価基準表を作成しているが、どんな方法で評価するか、何を使って評価するか、生徒の到達度を確認する方法が重要になる。その一つの方法としての毎時間の確認小テスト（5分間テスト、5分間質問等）を実施することにした。このことにより、教師にとっては、指導するうえでの目標を明確にできると同時に、生徒にとっては、授業・単元ごとの押さえるべき基礎・基本的事項を具体的にすることができるのではないかと考えた。

基礎基本を押さえた授業改善は16年度の本格実施に向け、計画を進めているので、15年度の成果については割愛する。

2 今後の課題

- 視写については、生徒の反応をみながらその教育的価値を明確にし、教育効果のあがる支援方法を考案しなければならない。
- 習熟度別指導において、少人数クラスに所属する生徒に対して、個人内評価と全員の中での絶対評価との兼ね合いが難しい。今は、関係教師の会で検討しているが、心情的な部分が大きく影響しているように思う。評価については今後の検討課題である。
- 基礎基本を押さえた授業改善として、確認小テスト等の継続、単元末確認テストを作成し活用することに絞ったが、到達度の低い生徒には何らかの対応が必要になる。ところが、各教科の対応策が基礎学力の不十分な生徒に一極集中するおそれがある。この点を解決するかが問題である。

IV 学力把握のための学校としての取り組み

- 絶対評価法による教研式標準学力検査
  - 平成15年度
    - 目的 観点別に全国平均との比較を行う。
    - 実施 平成15年6月6日
    - 実施学年 現在の2年生（中学1年の内容）
    - 実施教科 数学 英語
  - 平成16年度
    - 目的 観点別に全国平均との比較を行い経年変化をみる
    - 実施 平成16年7月実施予定
    - 実施学年 平成16年度3年生（中学2年の内容）
    - 実施教科 数学 英語

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究発表会未定
- 由岐中学校のホームページ掲載（平成16年2月予定）

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T. Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無